

自 平成25年 4月 1日
至 平成26年 3月31日

事業報告及び附属明細書

平成25年度

亀井南冥と亀井学



筑前五ヶ浦廻船



平成25年度は当法人が公益財団法人として認定を受け、公益財団法人亀陽文庫として活動を開始した年となりました。今後は、「公益」財団法人の名に相応しい活動を行うべく、従来以上に博物館事業を充実させていく所存です。

1 事業報告

平成25年度の事業実施結果について、当初計画に基づき以下のとおり報告致します。

1) 展示

- (1) [計画] 「観覧者にわかりやすく、親しみやすい展示」を行う為の一手段として、展示内容に関する「映像」を導入する。
- [結果] 展示に関するDVDを導入することにより、より観覧者の理解が深まったと自己評価出来る。具体的には、本館1Fの「亀井南冥」コーナーでは、金印発見とその鑑定及びなぜ志賀島での発見か？特に最後の部分が謎として今日に残る問題であることへの理解を得る上で有効であった。
- (2) [計画] 「福岡の医学」の常設展示を行う。
- [結果] 計画の目玉であった「原三信家・解剖図」の実物模型の製作については、原三信家からの実物借り出しができず、実現できなかった。解剖図の模型製作は引き続き検討する。
- (3) [計画] 特別展 谷口治達氏回顧「谷口コレクション展」を開催する。
- [結果] 同氏ご遺族の了解を得て準備に入ったが、予想以上に時間を要し、3月21日からの展示になった。その要因は、コレクションの展示方法即ち約70作品の入れ替え順番等を関係専門家とも相談しつつ進める必要があったことにあり、その結果、福岡県内を3つに区分し、画家の出身地ごとにそれぞれ3ヶ月、延べ9ヶ月（3月～26年度12月まで）のロングランとすることにした。特別展のテーマは、「ある美術記者の軌跡『谷口コレクション展』～戦後福岡のベルエポック～」とした。

2) 企画

- (1) [計画] 当館にとって、平成26年(2014年)が設立40周年、能古島移転25周年、主展示の「亀井南冥」没後200年にあたり、之に因む企画として特別展「亀井南冥没後200年」の開催準備を行う。
- [結果] 南冥没後200年特別展の準備は進行中である。その他に記念行事として「亀井南冥を訪ねるミニバスツアー」の計画が進行中である。その他の子ども向け「論語集」の出版については、その前に、地元小中学校での「論語についての授業」の時間の設定について話しを行っているが、4月の異動で新たなスタートとなる可能性がある。
- (2) [計画] 小冊子「博多湾物語」の再編集と復刻を行う。
- [結果] 平成26年度予算の範囲内で復刻事業を行う見通しである。
- (3) [計画] 英文チラシ「能古博物館へようこそ」を制作する。
- [結果] 亀井南冥コーナーはすでに前年に概括翻訳展示済みであるが、全体については上記(2)との整合性をはかるため、平成26年度に実施する計画に修正する。

3) 広報

- (1) [計画] ホームページの充実を図る。
- [結果] 本来のタイムリーな情報提供を目指し、春連休や、秋一ヶ月の通し開館の案内、年末年始及び冬季休館、新年開館日、別館1階の地元出身画家「多々羅義雄展」の案内等、これまでとは違った改善を図ることが出来た。外部からの意見投稿はなかった。
- (2) [計画] 「能古博物館だより」を発行する。
- [結果] 計画どおり、3回(69号、70号、71号)を発行した。各号A4版、6頁～10頁、2千部～3千部の印刷、配布先は能古島市民、一般市民向け広報ポスト、西区、早良区公民館、各メディア、自治体各部署、美術館、博物館、個人会員、個人・法人寄付者、その他記事関係者など。
- (3) [計画] 広報チラシ「能古博物館の紹介」を発行する。
- [結果] 計画どおり、約4千枚を発行した。姪浜渡船場、能古渡船場観光案内所、アイランドパークに置き供覧。内容は、博物館の概要案内、期間限定展示案内、通し開館や年末・冬

- 季休館と開館日の案内等。
- (4) [計画] ポスターによる来島者への広報を行う。
[結果] 広報チラシと同様の内容でポスターを作成し、島内各施設と各広報掲示板及び姪浜渡船場で張り出し案内を行った。
- (5) [計画] 船内・車内放送の実施や島内各施設との連携を行う。
[結果] 計画どおり、フェリー到着時の観光案内所の放送の中で「博物館の存在」の広報を実施した（開館日のみ）。島内の西鉄バス車内アナウンスでは、博物館最寄りのバス停案内を行うようにした。また、島内食事処他との連携で訪島者への博物館の紹介を行うなど、積極的な広報活動を展開した。

4) 経営基盤の充実

[計画] 「より広い一般市民の生涯教育と社会教育に資するための展示活動」を目指し、より充実した館内業務と館外への広報活動を進めるために、記念事業の準備とそれを支える基盤としての経営計画（中期）作りを進める。

[結果] 公益財団法人移行初年度にあたり、実際には中期計画の基盤づくりの年となった。

収入については予算以上の結果となり、減価償却費を除く収支差額は黒字化したものの、完全な収支相償を目指して更なる経営努力を行う必要がある。

節目の平成26年度に対処するため、平成25年度は上記の実績を背景に、一定の制約の中でも、積極的な企画とそれを支える経営の安定の必要性を改めて一致して認識する年となった。

島への来訪者数、館への入館者数が漸減傾向にある近年、相当な努力なしには進展が難しくなっている。

島においても「能古島未来フォーラム2014」という全島の検討の会も誕生した。当館も危機感をもってことに臨まねばならない。

平成25年度の総入館者数は1,592名（前年比△113名・6.6%減）であり、当館の認知度向上と来館者増加に向けて不断の努力を続ける必要がある。

2 会議開催状況

1) 評議員会

開催日 : 平成25年5月27日

内 容 : 平成24年度計算書類及び附属明細 (承認事項)
平成24年度財産目録 (承認事項)
平成24年度事業報告及び附属明細 (報告事項)

開催日 : 定款第19条に基づく決議省略

(議案について平成26年3月末日までに評議員全員同意)

内 容 : 平成26年度事業計画 (承認事項)
平成26年度予算 (承認事項)

2) 理事会

開催日 : 平成25年4月1日

内 容 : 寄附金取扱規程 (承認事項)
公益認定手続について (報告事項)

開催日 : 平成25年5月20日

内 容 : 平成24年度事業報告及び附属明細 (承認事項)
平成24年度計算書類及び附属明細 (承認事項)
平成24年度財産目録 (承認事項)
評議員会招集 (承認事項)
平成24年度監査報告書 (報告事項)

開催日 : 平成26年3月24日

内 容 : 平成26年度事業計画 (承認事項)
平成26年度予算 (承認事項)
評議員会招集 (承認事項)

3 役員等の状況

平成26年3月31日現在

役名	氏名	担当職務
理事	原寛	理事長
理事	西牟田耕治	常務理事
理事	柏木重人	理事
理事	黒田康介	理事
監事	牧健太郎	監事
評議員	原祐一	評議員
評議員	塚本昭二	評議員
評議員	有吉通泰	評議員
評議員	江頭啓介	評議員